

すぎと まちこんじゃくしゅういろく 杉戸町々々拾遺録

温古知新
杉戸の歴史をばれ話

第5回

黒曜石は語る 〜プライマル・トレードパス〜

前回のお話の中で黒曜石について触れましたので、今回は少し深掘りしてみたいと思います。

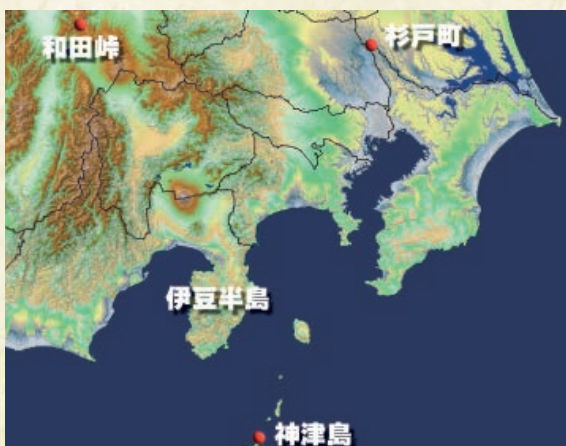
旧石器時代から縄文時代の日本では、黒曜石という特殊な石材が広く利用されてきました。黒曜石は、非常に美しくガラスのような硬い石で、刃物や鏃などの道具を作るのに適していました。

杉戸町内の遺跡においても黒曜石の出土事例は多く確認されています。この地域で見つかる黒曜石の中には、遠く離れた場所から運ばれてきたものもあります。特に、長野県の和田峠産や東京都神津島産の黒曜石が重要な役割を果たしていました。

まず、和田峠産の黒曜石について説明します。この黒曜石は非常に高品質で、日本全国で広く使用されました。和田峠は信州地方に位置し、埼玉県からはかなりの距離があります。それにもかかわらず、旧石器時代から縄文時代にかけて、和田峠産の黒曜石が埼玉県東部に届いていたことが自然科学分析の結果によって確認されています。これは、当時の人々が長い距離を移動しながら、物資を交換する交易ネットワークを持っていたことを示しています。

次に、神津島産の黒曜石についてです。神津島は伊豆諸島に属し、伊豆半島の南端から南に約50キロメートルの場所にあります。この島で産出される黒曜石も高品質で、遠くの地域にまで運ばれていました。神津島産の黒曜石が埼玉県東部で見つかることから、海を越えた交易が行われていた可能性があります。これもまた、当時の人々が広範な交流を持ち、物資を効率的に移動させていたことを示唆しています。

これらの事実から、埼玉県東部の人々が旧石器時代から縄文時代にかけて、遠く離れた地域との交流を通じて重要な資源を手に入れていたことがわかります。長野県や神津島の黒曜石は、単なる道具としての役割だけでなく、広域のネットワークを通じた文化や情報の交換にも寄与していたことでしょう。このような原始時代の交易の様子を知ること、当時の人々の生活や社会の広がりを感じることができそうです。



黒曜石の産地と杉戸町

Instagram 始めました！



(社会教育課 町史・文化財担当編)

人気コーナー

すくすくリニューアル

わが家のアイドル

対象 ●就学前の町内のお子さん

●ご家庭で飼育しているペット(新規！)

応募方法 電子申請、郵送、窓口持参のいずれかで必要事項を記入し写真を添えて応募

掲載された方には**特製カード**をプレゼント！皆さんのステキな1枚をお待ちしています！

おつかとうま
大塚 橙真ちゃん
令和5年10月18日生

寝返り
頑張るぞー



このように
掲載されるよ！

すぎぴよん

いつもニコニコ、
元気な
すぎぴよん！



詳しくは
こちら▼



QRコードから
簡単応募！▼



UD FONT
by MORISAWA

読みやすい書体であるユニバーサルデザイン
(UDフォント)を使用しています。



杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE